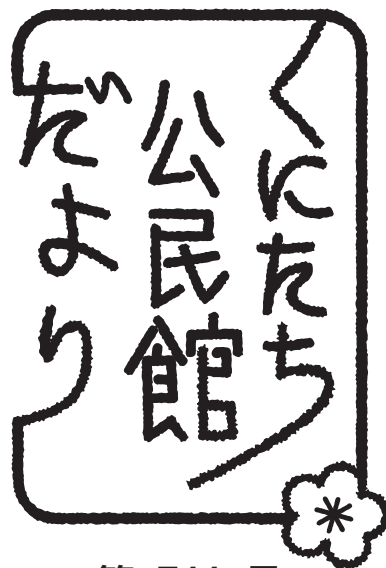


“自分ごと”として向き合う

—講座参加者の声—



第 744 号

2022年 2月 5日

(令和 4年)

「くくにたち公民館だより」
ホームページの QR コード ▶



発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

公民館では今年度、東日本大震災から10年という節目の年として改めて震災を振り返り考える講座、そして新型コロナウイルス感染症をさまざまな視点から捉える講座を開催してきました。昨年11・12月に実施した講座に参加された方々に感想を寄せていただきました。

『瓦礫の町への愛着から』の第一歩

「震災のあのとき、そしてそれから」を受講して

湊 修一



講師の菊池のどかさん

災害と正面から向き合い、自問自答しながらその体験の意味を深く考え、社会的役割を果たそうとしていく若い方の姿に感銘を覚え

た2時間でした。

岩手県の釜石で防災教育の推進と地域防災に取り組んでいる菊池のどかさんが釜石からオンラインでお話をしてくれました。

釜石は昭和35年のチリ地震で4m近くの津波被害を受けたことから、防潮堤・田畑・鉄道・住宅・避難路の配置にはそのときの津波を意識した町づくりをしていたとのこと。学校でも防災訓練として安否札・防災マップ等を企画し、学んだロープワークは避難所の荷



外国人との災害時の連携の大切さについて話す山崎さん (KUNIBO)

物固定で役に立つことになったのです。

2011年3月11日地震発生時、中学3年生。卒業式の歌の練習が終わり帰ろうとしていたとき、大きな長い横揺れ、まるで近くの海に引つ張られ、体を持って行かれるような揺れに襲われました。さらに山から大きな音が響いて来たそうです。避難時、合流した小学生の手を引いて1キロ以上走って避難場所まで逃げましたが、そこは海抜15m。避難所についたとき、ヘリコプターがバリバリと上空を飛んでいるようなものすごい音がして、友達の「何だあれ!!」という声で後ろを振り向くと、真っ黒い壁のような津波がきていて、家と家があぶつかつて砂埃が舞い、臭いにおいが充満していました。そんな中、さらに坂を500m登り、海抜44mの山まで逃げてようやく助かりました。避難の最中、もし自分に万一のことがあったときに親

が自分だとわかるように、名前の入ったジャージが脱げないよう、ひもをきつく縛ったそうです。こうした避難中・避難所でのお話を通して菊池さんが恐怖と焦燥と寒さの中でも冷静に事態を把握していたことがよくわかります。

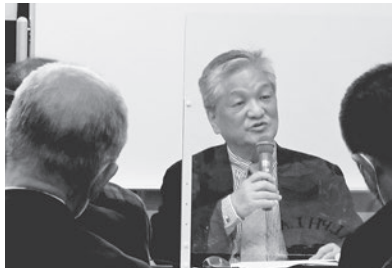
高校生活では語り部として体験を伝えながらも、家を失い親兄弟を亡くした人達のことを想うと、語る事が申し訳ない、話したくないと一時は自分を追い詰め、大学時代は2年間ほど語り部をやめたそうです。しかし、今思うことは孤立しない声かけ、瓦礫の町への愛着、防災のあり方を更に学びたいとのこと。

震災後10年を経て、改めて自分の体験したことの意味をとらえ直し、語り継ぐことへの熱意と強い意志を持った若い菊池さんに共感しつつ、参加者は精いっぱい応援をしてお別れしました。

(2021年12月2日実施)



被災地へ思いを巡らせました



講師の徐京植さん

徐京植先生の講座は、Eテレの映像や、詩(3篇)の朗読もあり、「想像力」についても深く考えさせられる素晴らしい内容でした。アレクシエーヴィチさん(ノーベル文学賞受賞)と徐先生との対話の映像も心に迫りました。チェルノブイリ(旧ソ連・ロシア)で……韓国で……そして日本のフクシマで……「小さき人々」の声。その痛み・葛藤・温かな交流・抵抗の声も、お二人の静かな熱とともに伝わってきました。

また、詩人のお話も心に残っています。原爆(被爆)や戦争に真剣に苦悩し、最後は自殺した原民喜も取り上げられました。今の時代は、「考えたくもない人が多くのも無理はないが、そういう人はいなくなったら(悲劇が)繰り返されてしまう。」「思考停止してはいけない。」と徐先生。またアレクシエーヴィチさんは「私が唯一知っているのは、これが長い道だということ。これが長い道……自分に対する答えです。我々一人一人が、自らの小さな仕事をすべきであり、善の側にいるべきだと思います」と。お二人の言葉が、講演でつよく残り、今も心の底に響いています。



徐さんの言葉をひとつひとつ受けとめるたくさんの方の参加者

今回このような深みのある講座が、地元公民館で行われたことはとても貴重で嬉しいことです。



講師の山本聡美さん

言うまでもなく、コロナ禍は私自身をはじめ、現代人ひとりひとりの思考回路を根底から揺さぶっています。命に関わる未知の流行病に対しては、最新科学を持ってしても一朝一夕には解決し得ず、すがすがしさを求めて右往左往することを、わたしたちは身をもつ

「人に人との接触によって発症するということ」以上には因果や対処法が分からないか、もしかして著効があるかもしれないとすがすがしさを求めて存在した仏教へのその頃のエリートたちの言動、そして、彼らの考え方が凝縮された形で寄進されたきらびやかな仏像の造形をつぶさに探ることを通じて、疫病が歴史を動かした様子が手に取るように実感できました。山本さんの研究力、そして、語りの方にぐいぐいと引き込まれ、コロナ禍の渦中、体験し得なかった知的興奮をひさしぶりに感じる、大変ありがたい時間でした。

いにしえの、当時は「舶来の文明」そのものであった仏教への反応を通じて、現代文明の結晶として捉えられることの多い「科学」への向き合い方についても、あらためて考える貴重な機会となりました。

私の美に凝縮された疫病への恐れを再現
「疫病と日本美術」を受講して
寺尾 智史

一市民の声もとりあげての企画。一緒に参加した他市の友人に「国立市に住んでいてうらやましい。」とも言われました。またいつか徐先生の講座を期待したいです。さここ、朗読された福島の斎藤貢さんの詩をお届けします。

「だから、草のひとよ。汚れた土地を放置して、無防備にこの地を置き去りにしているのは
いったい誰か、と。／その無念を、ひとよ。／喘ぎ声でよい。／限りなく遠くまで聞こえるように／いつまでも、語り続けよ。／草の声や地の声が／遠いひとのころを激しく揺らし／やがて、死んだひとの魂を鎮めるまで。」(「草のひと」一部抜粋)
(2021年12月4日実施)



お話に聞き入る参加者

今回は、いにしえの超エリートたちの喧々諤々が山本さんのまないたの上でしたが、今度は、民衆の、できれば武蔵野の野仏の美の中から抽出した、疫病との関わりについて山本さんの見解をおうかがいしたいです。
(2021年11月28日実施)

疫病との正しい向き合い方を考える

「流行り病の民俗学〜日本人の病因観と差別の論理〜」
を受講して

橋ヶ谷 七海

講師は國學院大學人文学部 助教、柏木亨介さんです。疫病と向き合うなかで生まれる社会問題の歴史的、文化的背景とそれらに通ずる新型コロナウイルス感染症との向き合い方について考えるきっかけを作ってくださいました。長い歴史のなか、日本人は何度も疫病の蔓延を経験し「疫病習俗」と言われる対処法を生み出してきました。悪霊や鬼の仕業で病気になることとされ、それらを追い出すために踊って追い出す祭りをする地域もあれば、疫病を神様に見立て



講師の柏木亨介さん

て村への侵入を防ぐために結界を張る儀礼などの方法で防御していたことがわかりました。今でも疫病神を屈服させるためにしめ縄を玄關に飾る家もあるが、地方によって形の違いがあるとのことなので、旅行で訪れた時は注目して見たいと思います。14の疫病習俗の事例から病因観を分析していくと、病態として軽微なものから激烈な症状が出る急性感染症、対処法として霊的存在を排除するの病人を排除するの、といった違いがはつきりあることを学びました。

講座の後半では、このような対処が、偏見や差別につながっていることに注目しました。近代医学の発展がもたらされる以前に考えられた病因観は、現代のコロナ禍における差別も同じことが言えるのです。

昔から病に罹ると自業自得と言



疫病習俗について多くの写真を交えながらお話いただきました

オンライン
受講可能

(憲法(政治)講座)

10.31衆院選を読み解き、若者の政治参加と、これからの政治を考える

国民の政治への無関心や無期待が懸念されています。その状況は選挙の投票率にもあらわれ、10月31日に行われた衆議院議員選挙は55.93%、ここ最近では低い投票率で推移しています。

議会制民主主義のもとでは、国民の意見を政治の場で代弁する議員の存在が不可欠であり、選挙で議員を選ぶことにより、国民一人ひとりの大切な意思を託しています。

今夏の参議院議員選挙で、私たちの意思を政治へ反映するため、改めて政治制度を考えたいと思います。

第1回は、NO YOUTH NO JAPAN「若者が声を届け、その声が響く社会」の活動における、Instagramでの情報発信、イベント活動を知り、U30世代の若者たちが目指す政治参加について報告していただきます。

第2回は、自民・公明党の連立政権の継続と、野党共闘による議席減少、日本維新の会などの議席増加が起こった10.31衆院選を中北さんに読み解いていただきます。

第3回は、国会と議員の役割を学び、国会を活発な審議の場とするには、どのような改革が必要なのか、大山さんに伺います。

回	日時	テーマ	講師
1	2月23日 (水・祝) 昼2時～4時	若者が目指す 政治参加とは	石井 佑果 (NO YOUTH NO JAPAN)
2	2月27日(日) 昼1時半 ～3時半	10.31衆院選を 読み解く	中北 浩爾 (一橋大学)
3	3月6日(日) 昼2時～4時	国会の制度から 今後の政治を考える	大山 礼子 (駒澤大学)

ところ 公民館 3階講座室

定員 会場受講：25名、オンライン受講：30名

※いずれも申込先着順

申込み 2月8日(火)朝9時～2月20日(日)夕5時

※申込先は5ページをご覧ください。

〈図書室のつどい〉

オンライン
受講可能



山に生きる



失われゆく山暮らし、山仕事の記録

お 話 三宅 岳 (フリー写真家)

山。そこに生きた人々のことを、私たちはどれだけ思い起こすことができるでしょうか。

山国と呼ばれるこの国の、谷を越え山^{やまひだ}を分けいったその奥のまた奥に、見事なまでの暮らしがあり、^{あまた}数多の仕事があったことを、現在どれだけの人が想像できるでしょうか。

三宅さんが全国各地で巡り会ってきた、山や木をめぐる多様な仕事について、お話しいただきます。

〈三宅さんの本〉

表題作 (山と溪谷社)、『炭焼紀行』(創森社)、『槍ヶ岳・穂高岳』調査執筆 (昭文社)、『丹沢』(山と溪谷社)、『雲ノ平・双六岳を歩く』写真・文 (山と溪谷社) ほか

と き 3月26日(土) 昼2時~4時

ところ 公民館 地下ホール

定 員 会場受講:40名、オンライン受講:30名

※いずれも申込先着順

申 込 2月17日(木)朝9時~3月24日(木)夕5時

※申込先は5ページをご覧ください。

〈図書室のつどい〉

社会と個人の間にあるジレンマ

~14歳からの資本主義/個人主義を考える~

お 話 丸山 俊一

(NHK エンタープライズ、東京藝術大学、早稲田大学)

昨今、資本主義をめぐる議論が盛んです。格差、分断が社会問題となり、世の中は複雑化・不透明感が増しています。多様性が叫ばれながらも同調圧力は変わらずに存在し、その一方で、個性が求められ、楽しいはずのSNSも苦痛になって日常的に疲れを感じている……そんな方も少なくないのではないでしょうか。

この社会のあり方、そしてその中で一人の個人として生きていくということについて、改めて考えてみます。

エグゼクティブプロデューサーとして異色の教養番組の企画制作を続ける丸山さんと、この時代やこの社会で心を開放する“生き方”“考え方”について考えてみませんか？

〈丸山さんの本〉

『14歳からの資本主義』、『14歳からの個人主義』(大和書房)『欲望の資本主義5』(東洋経済新報社 制作班との共著) ほか多数。

と き 3月5日(土) 昼2時~4時

ところ 公民館 地下ホール

定 員 40名(申込先着順)

申込先 2月8日(火)朝9時~

公民館 ☎ (572) 5141



〈地域史講座・フィールドワーク〉

多摩地域の戦争の跡を訪ねる

講 師 榎崎 茂彌 (立川市史編さん委員)

私たちの身近な地域に、戦争の傷跡が残っているのをご存じですか。

アジア太平洋戦争も末期になると、軍需工場が集中していた多摩地域は、多くの空襲を受け、これにより数多くの尊い命が奪われました。北多摩郡大和村(現在の東大和市)にある旧日立航空機株式会社の戦災変電所は、そんな戦争の傷跡をいまに伝える貴重な戦争遺跡の1つです。

今回の地域史では、第1回に、国立を含む多摩地域の戦時中の状況について学びます。第2回のフィールドワークでは、旧日立航空機株式会社戦災変電所を含む多摩地域の戦争の跡を、現在戦災変電所の説明員も務められている榎崎さんと一緒に訪ねます。

春の訪れも感じながら、歴史の痕跡をたどり、平和の大切さを学ぶ機会にしたいと思います。

定 員 15名

(原則2回続けて参加できる方、申込先着順)

申込先 2月15日(火)朝9時~

公民館 ☎ (572) 5141

第1回 「戦時下の多摩地域」(座学)

と き 3月12日(土)朝10時~昼12時

ところ 公民館 3階講座室

第2回 フィールドワーク

と き 3月19日(土)朝9時~昼12時ごろ

集 合 泉体育館駅(多摩都市モノレール)

解 散 玉川上水駅にて解散予定

コース 泉体育館駅→立川市立第八小学校(空襲で破損された二宮金次郎像)→砂川国民学校跡(土台)→旧日立航空機株式会社変電所→玉川上水駅(3km程度)

持ち物等 歩きやすい服装、
飲み物、筆記用具

※少雨決行。

ただし荒天の際は中止。

詳細は第1回目講座終了時にご連絡します。

協 力 国立まなびあるきの会



旧日立航空機株式会社戦災変電所

オンライン
受講可能

〈ジェンダー・セクシュアリティ講座〉

LGBTQ／性の多様性と 子どもたちの今

講師 遠藤 まめた (一般社団法人にじず)

近年LGBTという言葉は社会で広く知られるようになりましたが、当事者の子どもたちの多くは、学校でも家でも自分のことを安心して話せないと感じています。

今回の講座では、LGBTQや性の多様性のこと、子どもを取り巻く課題などを学びます。家族や恋愛、友達付き合いにおける“普通でなければいけないこと”や“秘密にしていること”など、家庭や学校で、日頃話せない暮らしの困りごとを取りあげ、学んでいきます。

こうした課題には、「居場所づくりが大事」だと、講師の遠藤さんはおっしゃいます。当事者としてのご自身の経験と居場所づくりの活動を通して、大切にしていることや意義、子どもの変化などを伺い、居場所の必要性についても理解を深めていきます。

当事者の子どもたちが、地域で暮らすなかで感じる不安や孤立をなくすために、「困っていることって何だろうか」と大人たちが知ることから考えていきたいと思えます。

とき 3月4日(金)夜7時～9時

ところ 公民館 3階講座室

定員 会場受講：25名、オンライン受講：30名

※いずれも申込先着順

申込 2月10日(木)朝9時～3月1日(火)夕5時

※申込先は右下をご覧ください。

公民館へご来館の際のお願い

平素は新型コロナウイルス感染症予防対策にご協力いただきましてありがとうございます。

引き続き感染拡大防止のため、講座参加と会場ご利用の際は、以下の点にご留意ください。よりよい学習環境を保つために皆様のご協力をお願いいたします。

- ・自宅で検温してからお越しください。(発熱37.5℃以上、咳、咽頭痛等の症状のある方はご来館をご遠慮ください。)
- ・マスクを着用してください。
- ・石けん等による手洗いや消毒液による手指の消毒を行ってください。
- ・過去2週間以内に感染拡大の地域や国へ訪問歴のある方はご来館をご遠慮ください。
- ・会場のご利用にあたり、サークル・団体の代表者等は、参加者氏名と緊急連絡先を必ず把握し、保健所等から依頼があった場合は、参加者名簿を提示してください。
- ・会場はこまめに換気してください。

シネボックス
〈CINEVOX 公民館映画会〉

『嵐が丘』

Wuthering Heights

1939年 アメリカ 白黒104分 ※DVD版

監督 ウィリアム・ワイラー 原作 エミリー・ブロンテ
出演 ローレンス・オリヴィエ、マール・オベロン、
デビッド・ニブ、ドナルド・クリスプ ほか

エミリー・ブロンテによる世界文学史上不朽の愛の名作「嵐が丘」を、『ローマの休日』『ベン・ハー』などで知られる、アメリカ映画を代表する名匠ウィリアム・ワイラーが映画化。主演に英国随一の名優ローレンス・オリヴィエを招く等、当時最高の実力派スタッフ・キャストを揃え、格調高い珠玉の傑作に仕上げた。



とき 2月27日(日)昼2時～(開場昼1時)

ところ 公民館 地下ホール

定員 40名(申込先着順)

申込先 2月16日(水)朝9時～

公民館☎(572)5141

*事前申し込み制となっています。必ず電話もしくは窓口にて事前にお申し込み下さい。

*新型コロナウイルス感染予防のため、途中で10分程度、換気のための休憩を設けます。ご了承ください。



～オンライン受講可能な 講座の申込先～

会場受講：公民館☎(572)5141

オンライン受講：

✉ sec_kominkan@city.kunitachi.lg.jp

→参加方法の詳細は、前日までにメールいたします。

※申込みメールには以下の項目を明記してください。

件名：申込みを希望する講座のタイトル

本文：①氏名

②ふりがな

③住所

④電話番号

件名

「〇〇〇講座」オンライン受講の申込み

〇 〇 B I ヴ 〇 10pt

①国立太郎

②くにたち たろう

③国立市〇〇丁目〇〇番地の〇

④042-〇〇〇-〇〇〇〇

メール画面参考▶

当日、参加者側の環境における接続や音声・映像の不具合についてのお問い合わせには対応できませんのでご了承ください。

「小学生初心者水泳教室」参加者募集

とき 3月2日(水)・4日(金)・9日(水)・11日(金)・16日(水)・18日(金)・23日(水)・25日(金) 計8回 午後4時から6時まで

ところ くにたち市民総合体育館 室内プール

費用 無料

指導員 くにたちドル平の会

対象・定員 市内在住の小学6年生 20名
(泳ぎの苦手なお子さんが対象です)

※応募者多数の場合は抽選。



申込 2月14日(月)(必着)までに、
●くにたち市民総合体育館ホームページ(<https://kuzaidan.or.jp/gym/>) (ホームページは16時まで) または●はがきに①住所②氏名③ふりがな④電話番号⑤学校⑥学年を明記の上、〒186-0003 国立市富士見台2-48-1 くにたち市民総合体育館「小学生初心者水泳教室」係 までお申し込みください。

※申し込み1件につき1名。複数名の記載、記載漏れの場合は無効とします。
※締切後に抽選を行い、締切後1週間をめどに応募者全員に連絡します。

問合先 くにたち市民総合体育館 ☎(573) 4111
主催 (公財) くにたち文化・スポーツ振興財団
共催 国立市教育委員会 生涯学習課

〈親子で遊ぼう・考えよう〉 おもしろ逆再生ムービーをつくろう

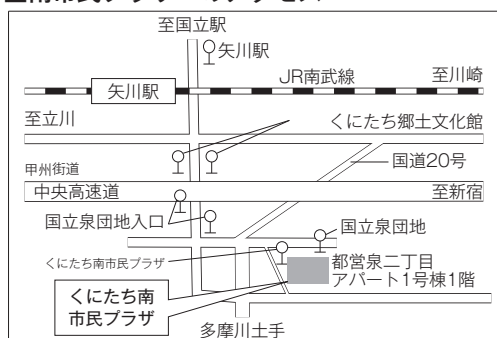
紙を切ったり、風船を飛ばしたり簡単な動きを撮影し、逆再生して不思議な映像を作りましょう。ミニカーやぬいぐるみ、つまきなどのおもちゃをお持ちください。どんな映像になるか?親子で楽しく考えながら撮影しましょう。

※完成した映像は、参加者の皆さんの合意があれば、講座終了後に参加者のみの限定公開でYouTubeにアップする予定です。

講師 山田 修平
(NPO法人東京学芸大こども未来研究所)

とき 3月13日(日)朝10時~12時
ところ 南市民プラザ 多目的ホール
持ち物 飲み物、ハンドタオル、おもちゃ
対象・定員 子ども(4歳から10歳)と保護者10組
(1組3人まで)(申込先着順)
申込先 2月22日(火)朝9時~ 公民館 ☎(572) 5141

■南市民プラザへのアクセス



*JR南武線矢川駅より徒歩15分
*立川バス「国立泉団地」バス停下車1分

〈社会教育学習会・パネルディスカッション〉

「コロナ禍における学びとつながり ~公民館の役割と期待すること~」報告

昨年12月18日(土)、公民館運営審議会(以下、公運審)と公民館の共同企画として、社会教育学習会が開催されました。今回は公民館を利用する様々な団体や公民館職員の計7名がパネリストとして登壇し、コロナ禍を通して見てきたこと・課題・思いなどを話しました。パネリストは大学生や小さな子どもを育てている若い親世代からシニア世代まで、様々な背景をもった方々です。

パネリストからは、公民館の出会いで大人になってからも親友ができたこと、平常の活動で信頼関係が培われていたからこそコロナ禍という困難な状況の中なかでも本音で話せたこと。活動を継続したいという思いと安心安全も大切にしたいというジレンマ、“居場所”として緊急事態宣言下でも公民館を開館し続けてほしいという願いなど、経験に基づいた率直な思いが語られました。

人が出会い、対話が生まれ、関係性が育まれることは、日常の世界を広げる「学び」と地続きのものです。コロナ禍はそんな私たちの日常に分断をもたらしました。今回の社会教育学習会は改めて、困難の中にあっ

◀趣旨説明をする末光公民館運営審議会委員長



▲パネリストとフロアで活発な意見交換もされました



▲それぞれの立場から、活動や公民館への思いを語ります。

ても学び、つながり続ける意味を見つめなおす有意義な機会となりました。

公運審では今期、コロナ禍における公民館事業についての館長諮問を受け、15名の委員が毎月答申に向けた議論を重ねています。市民ひとりひとりが主体的に学び、出会いにつながり、生きることを公民館がどのように支えることができるか。今回の社会教育学習会で得られた市民の“生の声”を答申作成に活かしていきたいと思えます。

ひろば

(8ページにもあります)




初雪が降りました！
撮影 K.S (中)

国立一芸塾写真クラブ会員募集
一眼レフカメラからスマホカメラまで、基礎から応用撮影技術を講師から学び、あなたが表現したい秀逸の作品を作っていきます。年一回の作品展も目標です。
日時 毎月1回第2か第3土曜日
場所 福祉会館 講座室
連絡先 大江080(5065) 5411

太極拳や気功等を通し、からだのバランスをとり戻します。頭が忙しい日常を、ゆったりといっしょにリセットしませんか。興味のある方は、ご連絡ください。
日時 土曜日 夕5時半〜7時半
場所 公民館 集会所や和室
連絡先 小田090(5236) 9368

気きの会

ー4月(ロビー5月)分 会場調整会のお知らせー

申込書のポスト投入期間	2月5日(土) ~24日(木)
公用使用の貼り出し	2月10日(木)頃
予約の重なりがあった団体の掲示開始日	2月26日(土) 重なり状況▶ 
会場調整会	3月5日(土)朝10時~

- ・予約の重なりのある、なしに関わらず、電話による連絡はいたしません。(ご不明な点は、公民館へお問い合わせください。)
- ・会場調整会へは、1団体につき1名(第1希望の会場がとれなかった場合の別の候補日も想定して、活動日を決定できる方)の方が、手洗い・マスク着用等の感染症対策のうえ、ご参加ください。

会場調整会は朝10時までに受付を済ませてください。



公民館運営審議会報告
1月11日(火)第33期第15回例会を開催。委員12名、館長職員2名出席。傍聴人6名。
前回議事録確認
議事録の若干の修正あり。
報告事項
○公民館だより編集研究委員会、社会教育委員の会、東京都公民館連絡協議会についての報告。
○社会教育学習会の感想・反省
12月18日(土)に実施された社会教育学習会の感想・課題等を担当及び委員で確認。概ね好評。
協議事項
○アンケート内容の検討
アンケート「コロナ禍における教育機関としての公民館の役割」の内容を検討。アンケートは公民館だより3月号に掲載予定の為、

なる大きな特徴は「居場所」としての役割を持ち合わせているところです。先生や同級生とも少し違う、ナナメの関係を大切に、勉強の他に趣味やそれぞれの学校生活、将来について話したりすることもあります。
自分の中高生の頃を思い返すと、学校と塾と習い事の往復ばかりでもっと身近にラボのような居場所があったら、より視野を広げることができる。
これを読んでいる中高生、大学生の皆さん、もし興味があればラボに参加してみませんか？ちょっとだけ自分の居場所が広がるチャンスかもしれません。(A、U)
実施時期、回収方法等を検討、修正案を至急作成し、正・副委員長に一任することで合意。
○職員体制要望書回答への対応と館長人事について
館長人事は内示前に候補者名を示し、公運審に諮る従来と変わらない要望とする。館長人事及び職員体制の要望に対する回答等については、次回例会内で教育長と意見交換会を実施予定。
○「新型コロナウイルス感染拡大時における教育機関としての公民館事業について」の答申作成に向けての協議。記録班、検証・提言班の各班報告や懸案事項等の共有・検討。
○次回例会は2月8日(火)夜7時15分から地下ホール。感染予防の上、傍聴歓迎。(幸島)

〈公民館の窓〉 LABO☆くにスタ



公民館というと「大人の集う場所」というように思いがちではないでしょうか。
国立市公民館では、中高生のための学習支援事業「LABO☆くにスタ(通称・ラボ)」を主催しています。中高生の学習を大学生が個別にサポートするという事業です。中高生には、学校の宿題や自分が進めたい課題などを持ってきてもらいます。大学生はノートの取り方からテスト対策など、個々の自主性やペースに合わせて支援しています。ラボの、塾とは異なる

今月の公民館 (2月～3月中旬)

2月13日(日)朝 親子で遊ぼう・考えよう
「紙バンドでアートな帽子、お面を作ろう」

23日(水・祝)昼～ ★憲法講座
「10.31衆院選を読み解き、若者の政治参加と、
これからの政治を考える」

25日(金)昼～ 作家と作品「ミヒャエル・エンデの物語」

27日(日)昼 シネボックス CINEVOX 『嵐が丘』

3月4日(金)夜 ★ジェンダー・セクシュアリティ
「LGBTQ/性の多様性と子どもたちの今」

5日(土)昼 図書室のつどい
「社会と個人の間にあるジレンマ」

12日(土)朝～ 地域史講座・フィールドワーク
「多摩地域の戦争の跡を訪ねる」

13日(日)朝 親子で遊ぼう・考えよう
「おもしろ逆再生ムービーをつくろう」

★はオンライン受講可能な講座です。

講座の開催状況などに変更があった場合は、公民館入り口付近への掲示や、ホームページでお知らせいたします。ご不明の点はお問合せください。

公民館 ☎ (572) 5141



公民館の状況▲

ひろば

(7ページにもあります)



綿帽子雪

撮影 あずま てるお 東 照夫さん(中)

数学を楽しむ集い(2月期)

検算の方法、黄金比と関係する三角形を紹介します。数学の思いがけない使い方がお分かりいただけます。どなたでも気軽にお越しください。参加の方は、お電話を。

くにたち国際友好会WING

2月の国際理解講座はウズベキスタンについて、一橋大学留学生サマノフ エルドルさんにお話しいただきます。オンラインで行いますので事前申し込みください。
日時 2月19日(土) 夕5時～7時
場所 Zoomで行います
連絡先 和田 090(497)2110

「サークル訪問364」 「パサール・スニくにたち」

市民文化祭にバリ・ガムランのサークル、「パサール・スニくにたち」が出演すると知り、出向いた。ガムランとは、青銅製の銅鑼どらや鍵盤打楽器(鉄琴のような楽器)を用いて合奏するインドネシアの伝統音楽で、バリ島では寺院のお祭りで大編成の合奏が奉納される。昨年11月21日午前、公民館地下ホール。バリ島風に腰にサロンを巻いた11人のメンバーが、床に置かれた楽器の前に陣取った。両面太鼓のボンという台図で演奏が始まり、銅鑼の大きな音の後を、鍵盤打楽器のキンキンという高音がリズムを刻んでいく。大音量がホールに響いた。踊り手を交えた2曲を含む4曲が演奏され、たつぷりガムランの音世界に浸った。
午後は、演奏体験ができるワークショップ。参加者は小学生から大人まで20人ぐらい。鍵盤打楽器「ガンサ」に挑戦した。もともと楽譜はないそうだ。メンバーがいねいに教えてくれた。槌で鍵盤を叩いたら、次の音と混じらないよう左手でミュートする。何度やっても苦戦した。最後に全員で合奏。打楽器のリズムが心地よい。後日、代表の堀川弥生さんとメ



両面太鼓の台図でガムランの合奏が始まる

ンバーに話を聞いた。堀川さんは学生の頃からガムランを始め、5年前、市民芸術小ホールの「市民一芸塾・ガムラン講座」で講師を務めた。継続を希望する受講者とのサークルを結成し、今メンバーは10人強。コロナ下で全員集まったの合奏が十分にできなかった。それでもメンバーは「チャレンジするのは楽しい」「曲を覚えるのは大変だが、気持ちいいプレッシャーだ」とさらなる向上を目指す。パサール・スニとは現地語で「芸術市場」のこと。「市場の芸術品のように多様な個性を持った人達が心を合わせて合奏する楽しさを、地域の皆さんと分かちあいたい」と堀川さんは抱負を語った。
日時 不定期(その都度連絡)
場所 公民館音楽室、郷土文化館
連絡先 堀川 090(3512)9887
メンバー随時募集中
〈文・写真 中井一人〉